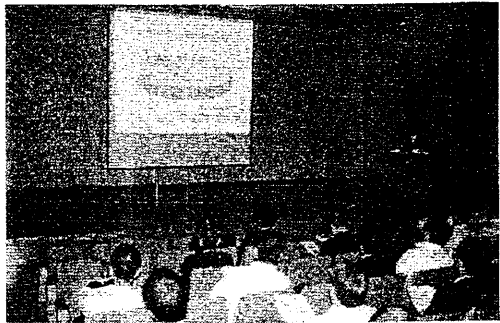


東京都 エコ・スクラム発表会 新アースプランに言及



東京都下水道局は20日、平成21年度下水道局職場研修会「エコ・スクラム活動」



松田局長



小川技監

発表会を開き、新アースプラン策定に向けた動きなどの報告を行った。同局職員と東京下水道サービス、東京下水道エネルギー社員を対象としたもの。

同発表会は、環境負荷低減に向けた同局のさまざまな活動成果を職員間で共有するとともに、局外における環境に係わる動向を理解することや、環境マネジメントシステム(エコ・スクラム)同局が取り組むクリーンでリサイクルに対応した総合マネジメントシステムの一層の活性化をはかることがねらい。

開会挨拶に立った松田二郎局長は「都の事業の中で下水道は多くのエネルギーを使っており、地球温暖化ガスの排出量も多い。この問題を解決する

新アースプランに期待が高まる

るには技術だ。蓄積がある多くの技術をさらに伸ばして、下水道から率先して環境対策を引っ張っていきたい」と意気込みを述べた。

の吉村和就代表は「世界における水環境の動向と下水道事業が果たす役割」と題して講演。食料や水資源、地球温暖化に関する問題など水をめぐる世界の状況を解説。水資源の不足を解決する鍵は下水の再利用にあると述べ、日本の水戦略を解説した。

活動発表では計画調整部計画課の仲尾龍馬主任が「新アースプラン策定に向けた取組」と題して同局の地球温暖化防止の施策を解説。今年度までが事業期間であるアースプラン2004の取組組み成果について、温室効果ガス排出量を6%以上削減し、19万トンの削減量となる見込みであると述べた。

また、NOは汚泥の高温焼却による大幅削減を達成したものの、CO₂については電力消費量の増大に伴い削減量を上回る増加傾向にあると新たな課題を示した。

さらに来年度から実施予定の新アースプランについて言及し、その策定の背景として「カーボンマイナス東京10年プロジェクトへの貢献」「改定された環境確保条例の順守」を挙げた。

発表終了後に講評を行った小川健一技監は職員に向けて「直接関わっている業務以外のことでも参考にして欲しい。新たな技術開発も必要であり、職員が心を一つにして高一丸となって取り組んで欲しい」と呼びかけた。

その他の発表事例は次の通り。

- ▽浮間水再生センターにおける省エネ活動の実施(西部第二下水道事務所)
- ▽「油・断・快適」下水道キャンペーンの実施(総務部)▽基幹施設再構築事務所におけるエコ・スクラムの取組(基幹施設再構築事務所)▽葛西水再生センターにおける汚泥脱水機の選定について(建設部)
- ▽兩プラ3号炉への多層燃焼技術導入について(森ヶ崎水再生センター)▽木質バイオマス混合焼却の初期運転経過について(流域下水道本部)▽新河岸水再生センター焼却炉2号の運転管理温度の変更に伴う燃料使用量について(東京都下水道サービス)

る水処理からのN₂O排出を抑制する技術の研究・開発や、送風機と散気装置の最適化を行い機器単体の省エネからシステム全体の削減効果をはかっていること、汚泥処理において機器の近接設置により搬送動力を削減することなどを挙げた。